ＲＥＳＡＳ

を分析してみよう。宮城県登米市　https：//resas.go.jp

ＲＥＳＡＳ（地域経済分析システム）は、地域経済に関する様々なデータ（産業の強み、人の流れ、人口動態など）をグラフで分かりやすく「見える化（可視化）」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、是非参考にしてみてください。
みやぎ北上商工会ではデータ分析支援機能から「人口対策」、「第一次産業」、「第二次産業・第三次産業」、「日本人観光客」の分析テーマから別添のとおりデータを取得しましたので参考にしてください。以下は取得したデータから読み取れる概要です。

１．人口推移について　（別添ＰＤＦファイル№.001～008）

2020 年の老年人口割合は宮城県全体と比べて高く、2020 年から 2045 年にかけて老年人口（65 歳以上）は 13.5%減少し、2020 年から 2045 年にかけて年少人口（0 歳～14 歳）は 43.1%減少すると予測されている。人口の社会減は 2012 年度から生じており、人口の自然減は 1994 年度から生じている。2013-2017 年の合計特殊出生率は全国と比較して高く、2013-2017 年の合計特殊出生率は 2021 年の宮城県全体と比較して高くなっている。

2020年の年少人口割合は10.96％となっており、宮城県平均より0.7ポイント低く、全国平均より1.07ポイント低い。
2013-2017年の合計特殊出生率は宮城県の2021年の合計特殊出生率より0.36ポイント上回っている。

２．第一次産業について　（別添ＰＤＦファイル№.101～111）

2020年の農業算出額は1902億円であり、第1位が米（795億円）、第2位が野菜（275億円）、第3位が肉用牛（245億円）

となっている。
　2020年の農業経営者の平均年齢は65歳で、全国・宮城県平均を下回っており、法人化率は2.11%で全国（2.85%）・宮城県（2.29%）平均を下回っている。2020年の農業生産関連事業の実施状況をみると「消費者に直接販売」、「農産物の加工」、「海外への輸出」が宮城県平均より比較的進んでいる。

３．第二次産業・第三次産業について　（別添ＰＤＦファイル№201～207）
　2016年の企業数をみると3,197社であり、「卸売業・小売業」が最も多く734社、次いで「建設業」の575社、「生活関連サービス業・娯楽業」の366社、「宿泊業・飲食サービス業」の327社と続いている。
　従業者数でみると「卸売業・小売業」が最も多く5,284人、次いで「製造業」の5,057人、「建設業」の3,990人、「医療・福祉」の2,813人となっており、付加価値額では「製造業」の231億円が最も多く、次いで「卸売業・小売業」の172億円、「建設業」の152億円、「医療・福祉」の105億円と続いている。

４．日本人観光客について　（別添ＰＤＦファイル№301～311）
　滞在人口の月別推移を見ると、2022年の14時は休日の8月が最も多く、11月が最も少ない。平日の滞在人口は8月が最も多く、10月が最も少ない。
　2022年の居住都道府県別の延べ宿泊者数の構成は宮城県の1,469人(19.10%)に次いで神奈川県が1,425人(18.53%)、東京都が880人(11.44%)、愛知県641人(8.33%)と続いており、2022年の宮城県の年間宿泊者数は6,564,187人、登米市は6,222人となっている。平日の自動車による目的地別を見ると「道の駅三滝堂」と「イオンタウン佐沼」が最も多く、次いで「道の駅みなみかた」、「道の駅よねやま　ふるさとセンターＹ・Ｙ」と続いている。

以上

※データ取得日：令和5年7月31日